

福島県 中学教育

発行所
 福島県中学校教育研究会
 責任者 遠藤 哲
 印刷所
 (株) 第一印刷
 福島市岡島字古屋館1番2
 TEL 024-536-3232

- 会長あいさつ…………… 会長 遠藤 哲 …… (1)
- 総会祝辞…………… 福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一 …… (2)
- 総会に臨んで…………… 副会長 馬場 勇 …… (2)
- 平成30年度本会予算…………… (3)
- 主題研修会に参加して…………… 各部会参加者代表 …… (4)
- 平成30年度福島県中学校教育研究協議会いわき大会の開催…………… (7)~(8)
- いわき大会をひかえて…………… 実行委員長 吉成 主宏 …… (7)
- 平成29年度中学校教職員研究作品の審査結果…………… (8)
- 平成29年度中学校教職員研究作品優良作品一覧…………… (9)
- 平成30年度福島県中学校教育研究会役員一覧…………… 事務局 …… (10)

あ い さ つ

福島県中学校教育研究会長 遠藤 哲



5月8日に開催されました「平成30年度第55回福島県中学校教育研究会総会」において、会長に選出されました福島市立信夫中学校の遠藤 哲と申します。副会長の皆様、各支部長、各専門部長、事務局員の方々のご協力をいただきながら、これまでの成果と課題を踏まえて本会の運営に全力で努めて参りますので、会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

東日本大震災に伴う原子力発電所の事故後、相双地区は中教研としての活動ができない状況にありましたが、相馬支部に続いて、今年度から双葉支部でも活動を再開されますこと、双葉支部の会員の皆様の熱意に敬意を表しますと共に、心からお祝い申し上げます。

さて、今年度より3年間、新学習指導要領完全実施に向けて、「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」を基本主題として研究を推進します。研究1年次となる今年度あっては、「主体的・対話的で深い学び」を各教科等でどのように具現化し、指導していくかについて研究の方向性を明確にして取り組むことが肝要です。

10月10日には県研究協議会いわき大会が開催され、各学校及び各支部の研究成果を持ち寄り、共有化を図ります。開催地においては、昨年度より準備を進めていただいておりますが、去る6月7日には、第1回実行委員

会が開かれ、前向きで熱心な意見が多く出されました。充実した研究実践がなされ、意義ある大会となることを期待しています。また、各支部においては研究協議会の運営等について工夫し、各専門部の研究活動を充実させ、いわき大会が活発な実践発表の場となることを願っています。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、私たち教師自身が「主体的・対話的」に学び、そこから新たな課題に気づき追究する、「深い学び」を実現することが何より大切です。そして私たちにとって、この中教研こそが「主体的・対話的で深い学び」の実現の場に他ならないのです。本会の結成趣意書にありますように、「愛する生徒たちのために、自分に鞭打つその鞭を求めて集い合う教育団体である」、このことを肝に銘じて、情熱と使命感を持って研究に向き合うことを望みます。

さらに趣意書はこう締めくくっています。「そこに中学校がある限り教育研究の出発点があり、終着点がある。県内の中学校ひとつひとつが県中教研活動のターミナルである」、各学校での研究実践や日々の授業が、目の前の生徒たちの「確かな学力」や「生きる力」につながることを強く願っています。

最後になりましたが、県教育委員会並びに各市町村教育委員会をはじめ関係機関の方々には、本年度も変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、これまで本会活動に多大なご尽力を賜りました高橋前会長様をはじめとする退会されました皆様方に衷心より感謝を申し上げあいさつといたします。

福島県中学校教育研究会総会
福島県教育委員会教育長祝辞

福島県教育委員会教育長 鈴木 淳 一



平成30年度福島県中学校教育研究会総会の開催に当たり、お祝いを申し上げます。

貴研究会におかれましては、昭和39年の発足以来、生徒の学力向上や心の教育などの充実や課題を的確に捉えた取組などを通し、本県中学校教育の発展に御尽力されておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、新学習指導要領においては、生徒たちの知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の推進や、各学校における学習の効果を最大化するための「カリキュラム・マネジメント」の確立などが求められています。

このような中、県教育委員会では、教育政策の骨太の方針を示す「頑張る学校応援プラン」の主要施策のひとつに「学力向上に責任を果たす」を掲げ、県版学力調査を大幅に見直し、小学校4年生から中学校2年生までの一人一人の学力の伸びを経年で把握して、効果的な指導

につなげる新たな学力調査の準備を進めるほか、本県独自の「活用力育成シート」を作成し、課題となっている応用力、活用力の伸長を図ることとしています。

また、昨年度に引き続き「授業スタンダード」「家庭学習スタンダード」の効果的な活用や、「学力向上支援チーム」による指導助言体制の強化など、教員や家庭の指導力向上に向けた取組も加速させますので、各種研修の場においても大いに活用してください。

貴研究会では、今年度から「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」という基本主題を掲げ、三年間の研究をスタートさせると伺っています。震災後の厳しい状況にあっても、生徒たちがたくましく生き抜く力を身に付けるとともに、一人一人の夢や希望の実現、本県の復興を共に担う人材の育成を期待いたします。

結びに、貴研究会のますますの発展と、ここにお集まりの皆さんの一層の御活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

総会に臨んで

昨年3月に新学習指導要領が告示となり、主体的・対話的で深い学びの在り方が提示されました。これを受け中学校教育では、新しい時代に必要とされる資質・能力を確実に身につけた生徒の育成が推進されてきています。これまでのような決まった答えのある課題を解く力のみが重要視されるのではなく、膨大な情報を前に自ら問いを立て、主体的に判断し、他者と協働して新たな価値を生み出す力を育てる教育が必要となっています。

こうした中、平成30年5月8日(火)に、福島県文化センターにおいて、福島県中学校教育研究会総会が開催され、今年度より新しい研究主題のもとで研究を推進することが確認されました。研究主題「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」は、福島県の教育の現状を的確に捉え、学習指導要領の目指すところと合致した主題であり、今後の福島県の教育力の向上が大いに期待できるものとなりました。

福島県中学校教育研究会副会長 馬場 勇

総会では、ご来賓の方々より本県教育における中教研の果たす大きな役割や今後の展望について激励の祝辞をいただきました。また、新旧の各会長からは、本研究の発足時の主旨や会員の主体的な取り組みについて示唆に富むお話がありました。その中でも特に、「研究団体があるからそれに参加し、研究会があるからそれに出席したというだけで満足しているという安直感を克服して、我々の研究活動の成果が中学生たちの目によって確かめられるものとしなければなるまい」という生徒に反映する実践研究の大切さや「研究の場は輝かしい大会場そのものにあるのではなく、塵に汚れている校舎でも、へき地に傾く校舎であってもそこに中学校がある限り研究の出发点があり、終着点がある」という中教研の原点を思い起こさせるあいさつに魂を揺すぶられました。改めて、これからの日本・ふくしまを担う未来の子どもたちのために中教研を実りあるものにしなけれならぬという想いを強くいたしました。

平成30年度本会予算

収入総額 8,005,919 円
 支出総額 8,005,919 円
 差引残額 0 円

1. 収入の部

項 目	本年度予算額	29年度予算額	比較増減	付 記
会 費	7,136,900	7,360,000	△ 223,100	2,300 円× 3,103 人
研究委託金	100,000	100,000	0	県中学校長会より
研究助成金	200,000	200,000	0	公務員弘済会より
繰越金	568,919	516,356	52,563	
雑収入	100	100	0	貯金利息
計	8,005,919	8,176,456	△ 170,537	

2. 支出の部

項 目	本年度予算額	29年度予算額	比較増減	付 記
1 会議費	1,785,000	1,785,000	0	
(1) 総会費	900,000	900,000	0	総会代議員等旅費, 昼食代, 要項印刷, 会場費
(2) 委員会費	80,000	80,000	0	委員・理事合同会旅費, 昼食代
(3) 理事会費	25,000	25,000	0	理事会旅費, 昼食代
(4) 事務局会費	30,000	30,000	0	事務局会旅費
(5) 主題研修会費	750,000	750,000	0	主題研修会旅費
2 事務費	92,000	92,000	0	
(1) 通信運搬費	2,000	2,000	0	送料, 切手代
(2) 消耗品費	5,000	5,000	0	書類ケース, 用紙代
(3) 印刷費	40,000	40,000	0	運営要覧その2
(4) 諸費	45,000	45,000	0	会計監査会旅費, H31年度保険料
3 事業費	2,938,300	3,460,000	△ 521,700	
(1) 研究大会費	1,513,300	1,540,000	△ 26,700	支部事業費 713,300 いわき大会費 600,000 大会要項・開催案内 200,000
(2) 研究調査費	825,000	605,000	220,000	専門部825,000 (75,000×11教科)
(3) 研究成果刊行費	0	715,000	△ 715,000	
(4) 広報活動費	600,000	600,000	0	「中学教育」印刷代(137号, 特集号, 138号)
4 支部活動費	2,855,900	2,660,000	195,900	各支部活動費
5 予備費	334,719	179,456	155,263	
計	8,005,919	8,176,456	△ 170,537	

主題研修会に参加して

国語部会

須賀川市立第三中学校
圓 通 圭 司

今回の主題研修会では、新しい研究主題の第1年次であることと、平成33年度から実施される新学習指導要領を踏まえて、副主題のとらえ方や授業構想、教師がどうコーディネートしていくか等について、活発に協議が行われました。

まず、事務局から今年度の研究主題の主旨「言葉による見方・考え方を働かせる」こと、「社会生活に生きて働く言葉の力」とは具体的にどういうことか、の説明があり、副主題「話すこと・書くこと」の領域における指導や評価の方法の工夫について、提案がありました。また、移行期間中であっても、新指導要領のより具体的な指導事項を参考にして研究を進めること等の示唆がありました。

協議では、特に研究の視点のオ「教材研究の視点」と「コーディネートのある方」について、具体的な事例や試案、各支部のこれまでの研究の積み重ねをもとに活発な話し合いが行われ、研究の方向性が見えてきました。「聞く」ことの評価についても、部長先生のとらえ方をお聞きし、話が深まりました。

この研修会で学んだ内容を踏まえて、支部全体の研究推進に役立てていきたいと思えます。

社会部会

玉川村立泉中学校
金 澤 美 紀

今年度は、「主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成する社会科の指導はどうすればよいか」の研究主題の1年次にあたり、副主題「社会的な見方・考え方を働かせ、社会との関わりを実感させる授業の工夫」を受け、そのとらえ方や授業構想について活発に協議が行われました。各分野の協議では、持ち寄った資料をもとに、研究主題にせまるための授業の実践例や構想の意見交換だけでなく、日頃の授業の取り組みやアイデアを出し合うなど温かな雰囲気の中で情報交換が行われました。地理的分野で特に活発に意見交換が行われたのは、ルーブリック評価やまとめと振り返りのあり方、ICTの活用や有効な板書の方法、資料を活用した多面的・多角的な視点の引き出し方などでした。

新学習指導要領における社会科に求められる資質・能力についての説明もありました。急激に変化する社会を生徒がよりよく生き抜くために、主体的・対話的で深い学びを通して学んだことと、実際の社会との関連付けを図り、より主体的に行動できるような力を身に付けさせていく必要性を改めて実感しました。この研修会で学んだことを支部の研究推進に、そして、自身の授業改善に生かしていきたいと思えます。

数学部会

三春町立岩江中学校
湯 田 しおり

「数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか」という研究主題のもと、1年次となる今年度は、「知識及び技能の確実な定着を図る指導の工夫」を研究副主題として、各支部で研究を推進していくことになります。研究協議では、新しい研究主題についての捉え方について、事務局からの説明があり、主題に迫るための視点について具体的に話し合われました。その中で、今年度は「視点ウ」を県全体の研究の視点として取り組んでいくことになりました。

グループごとの協議では、副主題となっている「知識・技能」の捉え方や各支部の実践における成果と課題についての話題が飛び交い、活発な話し合いとなりました。「主体的・対話的で深い学び」が主題研修会の中でも行われていたように感じます。さらに、事務局から新学習指導要領において新たに追加された「四分位範囲」と「箱ひげ図」の授業実践についての報告があり、大変参考になりました。データ処理の技能だけでなく、問題解決力や批判的思考力を育てるためにデータをどのように活用するかを念頭に教材研究を深めていく必要性を実感しました。今回の主題研修で得た学びを支部の研究推進に生かし、実りある研究にしていきたいと思えます。

理科部会

白河市立白河中央中学校
水 野 昌 治

今年度は、「自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する指導はどうすればよいか」という主題のもと1年次の研究に取り組むことになります。主題研修会では、事務局より研究主題の設定理由や副主題のとらえ方、研究の方向性についての説明がありました。また、各支部代表との協議も行われ、「生きる力」をより具現化して三つの柱からなる「資質・能力」とした、新しい学習指導要領を意識した先進的な研究主題について理解を深めることができました。

1年次副主題である「自然の事物・現象について進んで関わり、見通しをもって探究する態度を養う学習活動の工夫」については、特に、探究の過程において、見通しをもつ場面、見通しを見直してみる場面を1時間の授業の中や単元全体を通して、どこに設定するかといった教師の工夫ある単元構想が大切であると感じました。また、各支部からの取り組みや、授業試案も発表され、他支部の研究方法についても、活発な意見交換や質疑応答が行われました。

今回の主題研修会に参加して、3年間の研究の糸口を見つけることができました。支部全体で共有して、今後の研究推進に活用していきたいと思えます。

音楽部会

会津美里町立高田中学校
添 田 綾 音

今年度は、「感性を働かせ、様々な音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導はどうすればよいか」という研究主題のスタートとなります。新学習指導要領への移行期間に入り、その趣旨を生かした研究主題となっています。1年次は、副主題「見方・考え方を働かせる学習活動の工夫」について、研究を推進することを確認しました。研究推進委員の先生から、「感性を働かせるということ」「音楽科における資質・能力」「見方・考え方」などについての説明がありました。生徒が主体となる授業づくりを研究していきたいと思えます。

各支部からは、研究内容や研究の進め方、研究を推進するにあたっての課題について発表がありました。その中で、「見方・考え方」という言葉を、「とらえ方・感じ方」「視点・思考」と置き換えて考えるとわかりやすくなるという発表があり、とても参考になりました。協議の中では、思考ツールの活用法や、変声期中の男子への発声指導などが話題に上がりました。

主題研修会に参加して、今まで気づかなかった視点を得ることができました。どう捉えたら良いか分からなかった部分も、方向性が分かったように思います。今回学んだことを、今後の研究に生かしていきたいと思えます。

美術部会

喜多方市立第一中学校
金 澤 文 利

今年度より「造形活動を通し、多様な価値観や豊かな創造力を育むことで、自己実現の喜びを味わわせる美術教育はどうすればよいか」という主題のもとに今回の主題研修会も各支部の先生方の熱い思いが語られた。特に心に残るのは、葛尾中学校佐藤教諭から双葉支部の中教研復帰の報告だった。共に教育現場のもとで中学美術について研究・推進できる喜びを感じた。また今年の県大会でのいわき支部の発表に関しては、中学美術における「学修者が能動的に学修に参加する学習」の実践が予定されている。部会も今までと異なり表現・鑑賞の2部会に分かれ公開されるのは大変興味深く感じている。

震災後この七年間、ここに暮らし、私たちが教育の現場で見ているものは「学び」の本質を問いかけてくる。福島に今もなお突きつけられている「こと」を主題、副主題のもとで中学美術でどう伝え、理解させ育てていくべきか。美術科としてできることは、福島の基層文化、各地域の伝統文化の継承。生徒たちに「私は誰であるのか」を美術科の題材の中から実感させるべく県内美術教員が情報交換・共有し研究推進に努めたい。

保健体育部会

新地町立尚英中学校
原 田 侑 奈

今年度は、「生涯を通じて心身の健康を保持増進するとともに、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか」という新たな研究主題のもと、研究副主題「運動の楽しさや価値に気づき、課題解決に向けて粘り強く取り組む態度を育む指導の工夫～(体育分野)～」について、各支部の実態に沿って研究を推進していくこととなります。

主題研修会では、はじめに、新学習指導要領で明記された「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成に向け、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの学びの過程を相互に関連させ、保健体育科で求められる学びを一層充実させることが大切であるという話がありました。その中でも平成30年度は、「主体的な学び」に視点を置き、副主題が決定したとのことでした。

相馬支部では、震災や原発事故の影響による体力・運動能力の低下や、それに伴った肥満傾向の生徒の割合が高く課題となっています。今回の主題研修会の中で学んだ、各支部の先生方の熱心な取り組みを参考にさせていただき、生徒達が主体的に運動に取り組むことができるよう実りある研究を進めていきたいと考えています。

技術部会

大熊町立大熊中学校
佐 藤 孝 文

今年度から新たな研究主題「技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や社会の中から主体的に問題を見出し、解決する力を育成するための指導はどうすればよいか」のもと3年間の研究が始まります。1年次の今年度は、副主題「生活や社会の中に問題を見出す題材や導入の工夫」について研究推進をしていきます。

主題研修会では、今年度から移行措置として実施される新学習指導要領に合わせ、評価の観点について、学習指導要領解説中の「資質・能力系統表」をもとにした3つの資質・能力に着目した研究を進めていくことが提案され、活発な話し合いがなされました。また、各支部からの研究計画報告・質疑応答でも、新学習指導要領をどのようにとらえ、取り組もうとしているのかを学ぶよい機会となりました。

北会津支部では、昨年度まで「ストーリー性のある題材」をテーマに、地域に根ざした教材の開発に取り組んできました。研究内容は材料と加工に関する技術へと変わったものの、今年度も地域に根ざした題材選択や教材の発掘・開発を通して、生徒が将来にわたって能動的・主体的に学び続けることができる姿を目指し、研究を進め、共有を図っていきたいと考えています。

家庭部会

南会津町立田島中学校
星 由起子

今年度の主題研修会では、新しい研究主題のもと、新たな領域での第1年次となるため、積極的な質疑応答が行われました。特に評価の観点について、現行の「生活や技術への関心・意欲・態度」、「生活を工夫し創造する能力」、「生活の技能」、「生活や技術についての知識・理解」の4観点から新学習指導要領の「育成を目指す資質・能力の系統表」を基にした「知識および技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの観点で先行研究を進めることが確認されました。

普段は同教科で話し合う機会が少ないため、県内の様々な先生方の見識に触れられるこの研修会は、大変よい勉強の場となっています。その中でも他県で行われている先行研究の情報などを聞くことができ、大変有意義な会となりました。

「技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や社会の中から主体的に問題を見出し、解決する力を育成するための指導はどうすればよいか」の主題を新しい学習指導要領の目標と照らし合わせ、「学びの深まり」の鍵となる技術・家庭科における「見方・考え方」を自分の中でしっかりと落とし込み、支部に持ち帰り支部全体の研究推進に努めていきたいと思ひます。

英語部会

いわき市立中央台南中学校
宮崎 美穂

今年度から「目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか」を研究主題に、「やりとりの即興性や継続性を育む指導の工夫」を副主題に英語部会としての研究を進めていくこととなります。主題研修会では、各支部の研究主題・副主題のとらえ方や研究内容、方法などについて熱心に協議が行われました。

その中でも特に、即興的で双方向のやり取りのある言語活動をいかにして設定すべきか、帯活動の効果を上げていくためにはどのような工夫が必要かなどが話題となりました。

今回の主題研修会に参加させていただき、私自身としては生徒が英語で会話を継続させるには、語彙指導が重要であることを改めて実感しました。生徒が英語で会話を継続させていくためには、会話の基盤となる単語の定着が必須の条件だからです。

新しい試みに挑戦することは大切だと思いますが、これまでの自分の授業や家庭学習のさせ方を振り返り、良さを活かし改善を加えていくことをまず実践していきたいと思ひます。この研修会で学んだことを支部の皆様にお伝えし、支部全体で研究を進めていきたいと思ひます。

道徳部会

福島市立岳陽中学校
小野寺 貴子

今年度は、「人間としての生き方についての考えを深める道徳の学びはどうすればよいか」という研究主題のもと「読み物教材を用いた効果的な発問構成の工夫」を副主題に研究を推進していきます。主題研修会では、副主題の捉え方や授業の展開等についての説明があり、各支部で研究実践するための共通理解が図られました。

午後は、つくば中央研究センター研修プロデューサー小林園先生の講演会が行われました。「考える発問」とは「生き方につながる発問」でなければ意味がないことや「道徳は、人間としてのよりよい生き方を求めて教師と生徒が共に考える授業であり、発問に対する生徒のどんな答えも受け止めて、言葉にならない言葉を引き出すことが教師の役割である。そのためには広い教材研究と経験を積むことが大切である。」というお話は興味深く、また資料の構造を図で捉えて中心発問を考える方法は、研究の実践に向けて、大変勉強になりました。

主題研修会に参加し、研究の方向性についてさらに理解を深めることができました。これからも生徒の実態をつかみ、必要な道徳的価値は何かを明確にした上で、ねらいとする道徳的価値に迫る発問構成を工夫し、考えを深める授業の実践、研究を進めていきたいと思ひます。

特別活動部会

伊達市立桃陵中学校
佐藤 清孝

今年度は「学校の創意工夫を生かし、深い学びを通してよりよい人間関係を築こうとする生徒を育む指導はどうすればよいか」という研究主題の1年次として「学級・学年の一員として、よりよい学級や集団づくりに参画するための工夫」という副主題のもと研究を進めています。

主題研修会では、事務局より、一人一人の良さに着目し自己肯定感を養い、所属感や自己肯定感を高めること、課題設定から振り返りまでの一連の活動を実践と捉えること、Q-Uテストなどの諸検査や意識調査を有効に活用すること、小学校から中学校へのつながりのある指導を行うことなどの方針が示されました。

その後、支部同士の話し合いを4人グループで行い、各支部の実践と課題について共有し、本年度の研究の方向性について意見を交換することができました。その後、グループごとに発表を行い、全体で共有することで、本年度取り組むべき実践を具体的に考えることができ、研究に対する意欲がより一層高まりました。

本研修会を受け、生徒の自主的で意欲的な姿勢を育てるのは教師の適切な働きかけであることを改めて認識し、支部で情報共有を図りながら研究を進め、実践に努めていきたいと思ひます。

平成30年度福島県中学校教育研究協議会いわき大会

いわき大会をひかえて



平成30年10月10日(水)いわき地区において、福島県中学校教育研究協議会大会が開催されます。

基本主題「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」の趣旨は、新学習指導要領の実

施に向けて追究すべき本県の研究の方向性を指し示しています。

今年度は、本基本主題に基づく3年次研究の初年度ということで、趣旨を十分に踏まえ3年間を見通した研究を進めていくことが求められます。このいわき地区が、研究の方向性を決定づける重要なスタートを担うことは、大変誇らしく感じるとともに、その重責をかみしめています。まずは、様々な方向からの各教科の研究と主題に沿った授業を行ってまいりますので、厳しくそして温かく協議していただければと思っています。

さて、私たちには多忙化解消に向けた取り組みや再任用、複数校勤務など、様々な課題が山積しています。それゆえに、私たちにとって最も大事なことは、教育の原点に立ち返って、たくましく生きる子どもたちの姿を求

いわき大会実行委員長 吉成主宏

(いわき市立泉中学校長)

めて「実践に学び、生き抜く力を育む」活動を推進することだと思います。

私たちの福島県中学校教育研究会は、県内各地域の教育情報を集約・統合・拡散し、そして世代を越えて教職員が切磋琢磨する場であり、学校現場の教育活力を自信と根柢をもって醸し出す拠点であると考えます。まさしく、拠点の中での中核として各教科部会があり、その活動が会員相互の学び合う場・高め合う場となり、各支部の会員に刺激を与える存在です。

いわき地区の中教研活動は、まだまだ未熟な面もありますが、本いわき大会を通じた情報共有により、いわき地区はもとより、全県下の子どもたちが希望に満ち、たくましく生きるよう活動の充実を図り、福島の風土に根ざした実践者として、目の前の子どもたちとともに歩んでいければと考えています。県内会員各位のさらなるご支援をお願い申し上げます。

「わたしたちの県中教研」に誇りをもち、その意義をよく理解しながら、共に知恵を出し合い、共に高め合いながら、10年先、100年先、そして未来につながる確かな歩みを進めていこうではありませんか。

福島県中学校教育研究協議会いわき大会の開催

1 目的

本県中学校教育研究会の設定した研究主題について、各中学校及び各支部の研究成果を持ち寄り、全県的な規模において研究協議し、会員の資質の向上を図るとともに、本県中学校教育の充実発展に資する。

2 主催

福島県中学校教育研究会

3 共催

福島県教育委員会

4 後援

福島県中学校長会

福島県市町村教育委員会連絡協議会

開催地区内市町村教育委員会

(いわき市教育委員会)

5 協賛

公益財団法人日本教育公務員弘済会福島支部

6 期日

平成30年10月10日(水)

7 会場

国語科	いわき市立平第二中学校
社会科	いわき市立植田中学校
数学科	いわき市立錦中学校
理科	いわき市立平第一中学校
音楽科	いわき市立平第三中学校
美術科	いわき市立中央台南中学校
保健体育科	いわき市立中央台北中学校
技術・家庭科	いわき市立好間中学校(技術) いわき市立泉中学校(家庭)
英語科	いわき市立四倉中学校
道徳	いわき市立上遠野中学校
特別活動	いわき市立植田東中学校

8 参加者

各支部代表会員、各支部専門部長及びいわき支部会員

9 日程

8:30	9:00	9:20	9:30	12:00	13:00	13:50	14:05	15:30
受付	開会式	移動	研究協議	昼食	授業公開	移動	研究協議・閉会式	

10 運 営

- (1) 本年度は、研究主題1年次である。
- (2) 各中学校において、各研究主題を自校の現職教育に取り入れ、具体的な研究実践を推進する。また、各支部において、各学校の教育実践の成果を支部研究協議会で共有できるよう計画する。
- (3) 各専門部会の授業数及び分科会数は次のとおりとする。

教科等	授業数	分科会数	教科等	授業数	分科会数
国 語	3	3	社 会	3	3
数 学	3	3	理 科	2	2
音 楽	2	2	美 術	1	1
保健体育	2	2	技術・家庭	1・1	1・1
英 語	3	3	道 徳	3	3
特別活動	2	2			

- (4) 授業実施にあたっては、支部専門部あるいは県専門部との十分な連携のもと適切な授業研究に努める。また、支部専門部は、支部内における研究推進計画に基づき、授業実施に際しては組織的に支援する。
- (5) 開催地区においては、実行委員会を組織し、研究協議会の諸準備並びに運営に当たる。
- (6) 各専門部の責任者は、県専門部長と連携を密にし、適切な運営計画により事前の準備並びに当日の運営に当たる。特に専門部研究協議会は、研究主題及び副主題に沿って十分な協議ができるようにし、内容の充実を図るように努める。
- (7) 各支部代表参加者は、事前に必要な資料を提出する。提出資料の部数、期限等については、第2次案内に明記する。
- (8) 開催地区（いわき支部）においては、地区内全会員が各専門部会に参加できるように配慮する。

11 研究のまとめ

研究実践の成果を「研究集録」としてまとめ、各中学校に配付する。

平成29年度中学校教職員研究作品の審査結果

福島県中学校教育研究会研究推進部長 高橋 政 広

平成29年度の各支部推薦教職員研究作品27点について、去る5月31日に第1次審査において、優秀作品6点を選出し、6月12日に第2次審査を行い、優秀作品6点の中から最優秀作品として2点を選出いたしました。

審査の内容及びその結果を報告いたします。なお研究内容、審査講評等は特集号において公表いたします。

1 研究作品の領域別出品数

国語1 道徳2 総合1 学習指導23 合計27点

2 審査の観点

- (1) 研究の構想
 - ・研究の目的
 - ・研究計画・方法
 - ・研究の理論
- (2) 研究の内容
 - ・実践の適切性
 - ・内容の一般化
 - ・資料の累積

(3) 研究のまとめ

- ・結論の妥当性
- ・研究成果の活用性
- ・表現や記述、まとめ方の工夫

(4) 研究の総合性

- ・研究の価値

3 審査員

(1) 第1次審査

会長・事務局長・県専門部長（理事）・事務局員

(2) 第2次審査

福島県教育庁義務教育課 主任指導主事 小松 信哉 先生
 福島県教育センター 主任指導主事 酒井 康雄 先生

4 審査結果

(1) 最優秀賞

No	支部名	氏 名	学校名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	福 島	代表 福地 憲司	福島四中	道徳教育	よりよく生きようとする生徒の育成 ～多様な切り口で取り組む道徳教育の工夫・改善を通して～
2	安 達	代表 佐原 聡	二本松一中	学 習 指 導	自己肯定感を高める指導の工夫 ～学びの質を高める指導方法の工夫を通して～

(2) 優 秀 賞

No	支部名	氏 名	学校名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	福 島	橋本 武志	立子山中	国 語 科	日常生活に生きる書写力の育成 ～文字のきまりを理解し、活用する指導～
2	安 達	代表 鈴木 豊	大 玉 中	学 習 指 導	思考力をはぐくむ授業の創造（2年次） ～論理的思考を促す指導過程の工夫～
3	郡 山	代表 仁平 光俊	湖 南 小 中	学 習 指 導	豊かな人間力をそなえた子どもの育成 ～『思い』を受けとめ、伝える力（3年次）～
4	両 沼	代表 高橋 弘悦	西 山 中	学 習 指 導	授業のUD化によるわかる授業の研究 ～「どの子もわかり、できる授業」の実践を通して～

●—— 平成29年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧 ——●

No	支部名	氏 名	学 校 名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	福 島	代表 小 針 伸 一	福 島 二 中	学 習 指 導	生きてはたらく「学びの力」を求めて ～生徒の「出力」を高める授業の創造～
2	福 島	代表 福 地 憲 司	福 島 四 中	道 徳 教 育	よりよく生きようとする生徒の育成 ～多様な切り口で取り組む道徳教育の工夫・改善を通して～
3	福 島	橋 本 武 志	立 子 山 中	国 語 科	日常生活に生きる書写力の育成 ～文字のきまりを理解し、活用する指導～
4	福 島	代表 齋 藤 仁 道	山 木 屋 中	学 習 指 導	考える力を身に付けさせるための学習指導 ～自ら学ぼうとする力の育成を目指す指導の工夫を通して～
5	伊 達	代表 鈴 木 昭 夫	伊 達 中	学 習 指 導	伝え合い・支え合い・高め合う、協働する学びの創造 ～学び合いを深める効果的な交流活動の工夫～
6	伊 達	代表 湯 浅 英 生	県 北 中	学 習 指 導	『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指す授業改善 ～思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習活動を通して～
7	安 達	代表 佐 原 聡	二 本 松 一 中	学 習 指 導	自己肯定感を高める指導の工夫 ～学びの質を高める指導方法の工夫を通して～
8	安 達	代表 鈴 木 豊	大 玉 中	学 習 指 導	思考力をはぐくむ授業の創造(2年次) ～論理的思考を促す指導過程の工夫～
9	郡 山	代表 味 原 悦 雄	郡 山 一 中	学 習 指 導	主体的に学び、豊かに表現できる生徒の育成 ～共に学び、活用力を高める指導の工夫(2年次)～
10	郡 山	代表 仁 平 光 俊	湖 南 小 中	学 習 指 導	豊かな人間力をそなえた子どもの育成 ～「思い」を受けとめ、伝える力(3年次)～
11	郡 山	代表 熊 坂 洋	富 田 中	学 習 指 導	主体的に考え、深く学び続ける生徒の育成(1年次) ～思考ツールを活用した対話的学びを通して～
12	郡 山	代表 星 克 一	郡 山 四 中	学 習 指 導	紡ぎ合い、高め合える生徒の育成 ～ともに学び合い、かわり合いながら、言葉の力を育てる言語活動のあり方(3年計画 3年次)～
13	岩 瀬	代表 永 瀬 功 一	須 賀 川 三 中	学 習 指 導	『共同的な学び』を通して、深い学びが成立する学習指導の工夫 ～「対話」を重視した、聴き合う関係作りの工夫～
14	岩 瀬	代表 八 木 沼 孝 夫	稲 田 中	学 習 指 導	なりたい自分を目指して主体的に活動する生徒の育成 ～キャリア教育を通じた学び合い～
15	石 川	代表 小 玉 陽 彦	石 川 中	学 習 指 導	達成感が共有でき、学習意欲が高まる授業づくり ～「目標と学習と評価の一体化」による『学び合い』を通して(3年次)～
16	石 川	代表 有 賀 真 道	ひ ら た 清 風 中	学 習 指 導	生徒同士が学び合い、高め合う授業づくり ～磨きあい、高め合う「学び合い」活動のあり方(2年次)～
17	田 村	代表 佐 藤 和 典	三 春 中	学 習 指 導	学年型教科教室の学習環境を生かし、学び合い、学び続ける生徒の育成 ～活動的・協働的・反省的学びを取り入れた授業の実践を通して(2年次)～
18	田 村	代表 橋 本 誉 弘	移 中	学 習 指 導	課題と向き合い、主体的に学習する生徒の育成 ～学びの深まりが実感できる授業と評価の工夫～
19	東 西 しらかわ	代表 大 越 憲 峰	白 河 中 央 中	学 習 指 導	確かな学力を身につける授業の創造Ⅱ ～活用力を伸ばす授業の質的改善～
20	東 西 しらかわ	代表 古 川 晃	西 郷 一 中	学 習 指 導	主体的に学習する生徒を育成するための指導はどうか ～活用力をはぐくむための指導法の工夫を通して～
21	北 会 津	代表 君 島 秀 夫	若 松 五 中	学 習 指 導	確かな学力を身につける指導の工夫 ～学び合い活動を生かした生徒主体の授業づくり～
22	耶 麻	代表 五 十 嵐 正 彦	西 会 津 中	学 習 指 導	気づき、考え、実行する生徒の育成
23	両 沼	代表 高 橋 弘 悦	西 山 中	学 習 指 導	授業のUD化によるわかる授業の研究 ～「どの子もわかり、できる授業」の実践を通して～
24	南 会 津	代表 橋 成 美	松 枝 岐 小 中	道 徳 教 育	9年間を見通した小中一貫教育を活かして自ら伸びようとする児童生徒の育成 ～「つなぐ」をキーワードにした、考え、議論する道徳を通して～
25	南 会 津	代表 長 沼 敬 貴	下 郷 中	学 習 指 導	生徒一人一人の資質・能力を育む学習指導のあり方 ～主体的・対話的で深い学びを実現するための「授業改善」の工夫～
26	相 馬	代表 梅 田 善 幸	原 町 一 中	学 習 指 導	主体的に学習し、確かな学力を身につけ、積極的に表現できる生徒の育成 ～知識・技能の習得と表現活用を図るための学習活動の工夫～
27	相 馬	代表 和 田 節 子	飯 館 中	総 合 的 な 学 習 の 時 間	主体的・協働的な学びを通して、課題解決能力を育成する地域学習のあり方

平成30年度 中学校教育研究会役員一覧

役職名	氏名	学校名	郵便番号	学校所在地	電話番号	
会長	遠藤 哲	信夫中学校	960-1101	福島市大森字南内町31-1	024-546-7693	
副会長	杉山 忠彦	霊山中学校	960-0801	伊達市霊山町掛田字下川原30	024-586-1327	
	吉田 美智生	滝根中学校	963-3602	田村市滝根町神俣字中広土192	0247-78-2024	
	馬場 勇	大戸中学校	969-5122	会津若松市大戸町上三寄香塩211-1	0242-92-2510	
	渡辺 亮恵	鹿島中学校	979-2333	南相馬市鹿島区寺内字落合28	0244-46-2019	
	吉成 主宏	いわき泉中学校	971-8186	いわき市泉町玉露字吉野作42	0246-56-6043	
監事	柳田 健一	松陵中学校	960-1241	福島市松川町字上桜内3-4	024-567-2040	
	鈴木 康雄	安積中学校	963-0106	郡山市成山町1	024-945-1489	
	佐原 聡	二本松第一中学校	964-0904	二本松市郭内二丁目56-1	0243-23-0870	
委員	福島	遠藤 哲	信夫中学校	960-1101	福島市大森字南内町31-1	024-546-7693
	伊達	杉山 忠彦	霊山中学校	960-0801	伊達市霊山町掛田字下川原30	024-586-1327
	安達	佐原 聡	二本松第一中学校	964-0904	二本松市郭内二丁目56-1	0243-23-0870
	郡山	鈴木 康雄	安積中学校	963-0106	郡山市成山町1	024-945-1489
	岩瀬	佐浦 雅明	天栄中学校	962-0511	岩瀬郡天栄村大字白子字西原5	0248-83-2222
	石川	有賀 真道	ひらた清風中学校	963-8205	石川郡平田村大字永田字堂作145-1	0247-55-2005
	田村	吉田 美智生	滝根中学校	963-3602	田村市滝根町神俣字中広土192	0247-78-2024
	東西らかわ	星 喜博	西郷第一中学校	961-8091	西白河郡西郷村大字熊倉字火打山5	0248-25-2135
	北会津	馬場 勇	大戸中学校	969-5122	会津若松市大戸町上三寄香塩211-1	0242-92-2510
	耶麻	高畑 健一郎	喜多方第一中学校	966-0834	喜多方市字谷地地上7573	0241-22-0274
	両沼	佐藤 昭	三島中学校	969-7511	大沼郡三島町大字宮下字上ノ原2099	0241-52-2015
	南会津	菊池 博基	館岩中学校	967-0307	南会津郡南会津町水石19	0241-78-2004
	相馬	渡辺 亮恵	鹿島中学校	979-2333	南相馬市鹿島区寺内字落合28	0244-46-2019
	双葉	反畑 増生	川内中学校	979-1202	双葉郡川内村大字下川内字宮渡29	0240-38-2032
いわき	吉成 主宏	いわき泉中学校	971-8186	いわき市泉町玉露字吉野作42	0246-56-6043	
理事	国語	西牧 伸弘	岳陽中学校	960-8067	福島市須川町1-33	024-534-6171
	社会	加藤 芳宏	松陵中学校	960-1241	福島市松川町字上桜内3-4	024-567-2040
	数学	石川 幸男	渡利中学校	960-8141	福島市渡利字平内町106	024-523-5500
	理科	阿部 孝寿	西信中学校	960-2155	福島市上名倉字道上6	024-593-1049
	音楽	須田 順子	信夫中学校	960-1101	福島市大森字南内町31-1	024-546-7693
	美術	浅野 太平	福島第四中学校	960-8013	福島市南平5-8	024-535-4240
	保体	中村 徹	大鳥中学校	960-0201	福島市飯坂町字館11	024-542-4284
	技・家	高橋 政広	川俣中学校	960-1464	伊達郡川俣町字宮ノ脇14	024-566-4111
	英語	菅野 浩智	福島大学附属中学校	960-8107	福島市浜田町12-26	024-534-6442
	道徳	石綿 厚	吾妻中学校	960-2261	福島市町庭坂字原田8	024-591-1109
特活	二平 光明	立子山中学校	960-1321	福島市立子山字大稲場20	024-597-2311	
事務局長	島貫 条司	野田中学校	960-8057	福島市笹木野字市街道28-1	024-531-0031	
総務部長	大越 一也	北信中学校	960-0102	福島市鎌田字御仮家20	024-553-5049	
同 副部長	阿部 孝寿	西信中学校	960-2155	福島市上名倉字道上6	024-593-1049	
研究推進部長	高橋 政広	川俣中学校	960-1464	伊達郡川俣町字宮ノ脇14	024-566-4111	
同 副部長	菅野 浩智	福島大学附属中学校	960-8107	福島市浜田町12-26	024-534-6442	
刊行部長	古川 豊	西根中学校	960-0211	福島市飯坂町湯野字大平2	024-542-4641	
同 副部長	石綿 厚	吾妻中学校	960-2261	福島市町庭坂字原田8	024-591-1109	
一般会計部長	加藤 芳宏	松陵中学校	960-1241	福島市松川町字上桜内3-4	024-567-2040	
同 副部長	佐藤 友紀	渡利中学校	960-8141	福島市渡利字平内町106	024-523-5500	
研究調査会計部長	石川 幸男	渡利中学校	960-8141	福島市渡利字平内町106	024-523-5500	
同 副部長	浅田 和明	川俣中学校	960-1464	伊達郡川俣町字宮ノ脇14	024-566-4111	
ホームページ担当	齋藤 幸紀	野田中学校	960-8057	福島市笹木野字市街道28-1	024-531-0031	